



# JFE グループ TODAY 2014







#### グループの名称

「J」は日本(Japan)、「F」は鉄鋼(鉄の元素記号 Fe)、  
「E」はエンジニアリング(Engineering)を意味し、  
鉄鋼とエンジニアリングをコア事業とした  
「日本を代表する未来志向の企業グループ」  
(Japan Future Enterprise)であることを表しています。

#### 企業理念

**JFEグループは、  
常に世界最高の技術をもって  
社会に貢献します。**

#### 行動規範

**挑戦。柔軟。誠実。**

#### 目次 contents

**01** 企業理念・行動規範

**02** グラビア

**16** なでしこ座談会



**22** 特集:

## ニッポン再生への貢献



**28** JFEグループの概況

**30** 鉄鋼事業の概況と特徴

**36** エンジニアリング事業の概況と特徴

**40** 商社事業の概況と特徴



**43** JFEグループの歩み

**44** CSR活動

**46** 主要経営指標

**48** 企業情報

**49** マネジメント体制



# 最先端の技術で環境と調和 首都圏を代表する都市型製鉄所

JFE スチール東日本製鉄所(京浜地区)は、最先端の製造技術で世界の高級鋼需要に応えるとともに、世界初となる使用済みプラスチックの高炉原料化など環境リサイクル事業を数多く手がけており、環境調和型の製鉄所としてウォーターフロント京浜エリアの環境保全に貢献しています。





# 鋼の生まれる瞬間 世界初、累計粗鋼量4億トン達成

JFEスチール西日本製鉄所(福山地区)では、2013年5月13日、単一事業所としては世界で初めて累計粗鋼生産量が4億トンに達しました。また、第3製鋼工場において転炉1基の増設を決定し、転炉を活用した最先端の溶銑予備処理プロセスの導入を進めています。





# 中京圏の 天然ガス供給体制を強化

中部電力は川越火力LNG基地の貯蔵能力を1.75倍に増強。伊勢湾ガスパイプラインにより川越基地と知多地区LNG基地を連係し、基地間のバックアップ体制が整い、柔軟かつ効率的な運用が可能となりました。JFEエンジニアリングは、このプロジェクトにおいて基地プラントとパイプライン敷設を請け負い、予定よりも3ヶ月前倒しで完成しました。今後も天然ガス利用の拡大を図るエネルギー政策に対し、最先端技術を提供します。





# ベッドタウンの 都市環境プラント運転開始

2013年4月に稼動を開始した三鷹市・調布市の「クリーンプラザふじみ」は住宅街に建設され、「地域住民との共存」をコンセプトにした施設です。高性能のストーカ炉を採用し、高度な排ガス処理方式で環境に配慮したプラントです。JFEエンジニアリングは設計、建設に加え、今後20年間のプラント運営を受託しています。





# お客様とグローバル市場を 結びつける鋼材加工センターを 世界各国で展開

JFE商事は、アジアを中心に世界各地で16カ所の鋼材加工センターを展開しています。高度な品質管理体制のもと電磁鋼板・自動車鋼板等に1次加工のみならず2次・3次加工を施し、各国のお客様にジャスト・イン・タイムで製品をお届けしています。発電プラント建設が国家的課題となっているインドにおいても、2013年3月より鋼材加工センターを稼動。増加する電力量に伴い伸長する電磁鋼板の需要を、その加工機能を活かして捕捉するとともにお客様のご要望にお応えしています。





# 世界最大級の砕氷バルカー

ジャパン マリンユナイテッドで建造した、1.5mもの厚さの氷を砕氷する能力を持つ、2万5,000載貨重量トンの砕氷バルカー“NUNAVIK（ヌナビック）”です。





# テクニカルエキスパートから 次世代に受け継がれる 「鉄づくりの技術」

JFEスチールでは、団塊世代の大量退職による世代交代が進む中、若手社員へ「鉄づくりの技術」を積極的に伝承しています。今回、ベテラン社員や再雇用したOBを人材育成専任者「テクニカルエキスパート」として配置し、ベテラン社員が持つ技術・ノウハウを確実に「次のJFE世代」に伝承する取り組みを始めました。







## JFEグループでは、持続的な成長に向け、女性の活躍を推進しています。

JFEグループでは、持続的な成長のための企業体質の確立に向けた施策の一つとして、女性がより活躍できる職場環境づくりを念頭にダイバーシティの推進に取り組んでいます※。今回は、2013年度の「なでしこ銘柄」に選定されたことを契機に、JFEホールディングスの馬田社長とグループ各社の女性による「座談会」を企画。現状と今後のJFEグループについて“ありのまま”を語って頂きました。本紙面では、その一部をご紹介します。

※ JFEホールディングス、JFEスチール、JFEエンジニアリング、JFE商事の総合職社員のうち、女性は約9%の519人。2013年度入社(総合職)301人のうち62人、事務系112人のうち約4割(47人)は女性(2013年4月時点)



JFEグループは「なでしこ銘柄」に選ばれました。

JFEホールディングスは、経済産業省と東京証券取引所が共催する2013年度の「なでしこ銘柄」に選定されました。「なでしこ銘柄」は、女性の活躍推進に優れ中長期の企業価値向上を期待できる上場企業を、投資家に魅力ある銘柄として紹介することを目的としています。今回JFEグループ各社で進める女性社員の採用や活躍を促す職場環境づくりなどの取り組みが評価されました。

### 何故、JFEグループを就職先を選んだのか

**馬田：**JFEホールディングス社長の馬田です。自己紹介も兼ねて、何故JFEを選んだかについてお話しします。私は1948年生まれの65歳、いわゆる団塊の世代ですので皆さんのご両親より年齢は上かもしれません。旧川崎製鉄に1973年に入社し、千葉製鉄所製鋼部の製造ラインに配属されました。14年間千葉で勤務した後、西日本製鉄所(倉敷地区)で約7年、東京に20年弱で現在に至っています。当社への入社の動機ですが、私は工学部の冶金学科出身だったので、就職先は鉄鋼会社に絞っておりました。また、大学院への進学も視野に入れていましたので、奨学生を募集している会社ということで、旧川崎製鉄を選びました。つまり「どうしてもこの会社に入りたい」という熱い思いは余り無かったです(笑)。

**尾崎：**馬田社長に自然体でお話し頂けたので安心しました(笑)。私の入社は1988年でいわゆるバブル世代です。配属先の新素材ハイクテク研究所で、希土類磁石や酸化物超電導材料など新素材の研究開発に携わり、1996年からは現在の鉄粉分野で、製品開発や製造技術の開発を担当しています。何故JFEを選んだかー。私は理学部化学科出身で、液体金属の研究をしていました。当時はやはり女性の採用は非常に少なく、就職の選択肢は大学などの研究職か教職の道しかありませんでした。しかし運良く、大学院卒業の前年(1986年)に男女雇用機会均等法が施行されましたので、「最初に採用に来て頂いた会社に入社しよう」とその時決意していました。それが旧川崎製鉄です。それに加え、小学生の頃に見たテレビCMが非常に印象的だったこともあり、少し運命的なものも感じて入社しました。

**谷垣：**JFEを選んだ理由ー。私は工業高校の出身で、その時の専攻はインテリア科で木工製品なども扱っていたのですが、JFEの求人票を見たことを契機に鉄についていろいろ調べていくようになり、「鉄って強い、木ではかなわない。面白そう」と思うまでになりました。また、親の仕事の関係で、幼い頃から工具を使った製作や修理には慣れ親しんでおり、何よりそれ自体が好きでしたので、JFEに入社しました。現在は、製鉄所でエネルギー設備の保全を担当しています。

**高田：**私も工業高校の出身ですが、その時からモノづくりの会社へ進むことを何となく決めていました。谷垣さんと同じように、JFEの求人票を契機に「鉄はどうやってつくられるのかな。鉄から車や建物はどうやってつくられるのかな」と興味を持つようになり自分で鉄について調べました。また、担任の先生にもJFEを薦められましたので、女性が非常に少ない職場ということは知ってはいましたが、入社を決めました。現在は、ガスなどのパイプラインやプラント・建築に使用されるUOE鋼管の精整ラインでの品質検査業務を担当しています。

**當金：**私は2011年に入社し、1年目は広島県にある呉事業所で現場実習、2年目からは現在の事業本部でセミサブ\*の基本設計やFLNGと呼ばれる天然ガスの浮体式生産貯蔵積出設備の設計を担当しています。何故旧IHIマリンユナイテッドを選んだかは、造船の中でも成長分野である海洋開発に携わりたく、その思いに唯一応えてくれた会社でしたので入社いたしました。

**大野：**1999年の入社で、2013年の1月に現在の部署に異動となりました。それまでは、厚板の国内営業をしており、主に重機メーカーや造船会社を担当させて頂いておりました。現在の部署では、主に各種社内



馬田 一  
JFEホールディングス代表取締役社長



尾崎 由紀子  
JFEスチール  
スチール研究所  
鉄粉・磁性材料研究部長



谷垣 早耶  
JFEスチール 東日本製鉄所(京浜地区)  
エネルギー部 エネルギー室

※セミサブ：セミサブマーシブル(Semi-Submersible)の略。構造物の下部が半分海面下に沈み込んでいる半潜式式の浮体構造物





原岡 恵子  
JFEエンジニアリング  
人事部長

研修の企画・運営に携わっています。5月には、当社の総合職40名弱を引率して、西日本製鉄所（倉敷地区）に見学へ行ってきました。なぜ商社を選んだかですが、私は兼ねてより人との繋がりの中で仕事をしたいという思いを持っていたため、商社への入社を希望しました。

**原岡：**旧日本鋼管に入社し、企画管理部原価管理室に配属になりました。管理会計を9年間担当した後、子会社管理や子会社再編業務を経て、2010年4月から現在の人事を担当しています。何故JFEを選んだかは、私自身が橋やごみ焼却炉といったプラントのアドミニストレータ業務に携わり、これを私が作った!と言いたかったからです。

**岡本：**私は、2002年の最後の旧川崎製鉄入社です。西日本製鉄所（倉敷地区）の総務部労働人事室に配属になり、現場の方々の人事管理を担当していました。何故JFEを選んだかですが、小学生の頃に倉敷の工場を見学し、広大な敷地と迫力ある鉄づくりに圧

倒され、その体験が私の脳裏に強烈に焼き付いたからです。その後、学生時代に旧川崎製鉄の方に出会い、そこから鉄鋼メーカーで働くことに現実的な憧れを抱くようになり、入社へと至りました。

### 仕事と家庭を両立させるにはどうしたらよいか

**馬田：**有難うございました。入社の動機も多様であることがわかりました。次に、「仕事と家庭を両立させるにはどうしたらよいか」について、話し合ってみましょう。忌憚のないお話をお聞かせください。

**岡本：**私には、5歳、3歳、1歳の3人の子供がいます。子供の世話がありますので、残業は難しいのですが、独身の時より、時間当たりの生産性は随分と高まりました。子供のいない時は、時間を使えるだけ使うせいか、仕事のことが頭から離れず、ドンヨリとして疲れが取れないこともありました。ですが、子

供ができてからは、仕事と家事・育児のオン・オフの切替えがうまくできるようになり、翌日また新たな気持ちで仕事に取り組めます。子供の世話で肉体的には本当にヘトヘトに疲れますが(笑)。

**尾崎：**そうですね。私も子供を3人、無我夢中で育てたのでわかります。現在は3人とも大学生になり、岡本さんとは違って、肉体的には楽なのですが、経済的に厳しいという状況です(笑)。育児・介護休業法が施行された年に、双子が生まれましたので、育児休業を1年間取得しました。

**岡本：**私の場合は、主人が同じ社内で働いていますので、子供の発熱などの時は、2人で緊急会議をして、どちらが休むかを毎回決めています。例えば、午前中が私で、午後は主人という時もあります。お互いが別々の会社の場合は、子供の世話で休暇を取る調整は難しいかもしれないと感じます。

**尾崎：**私もそう思います。今後JFEで女性社員が増えてくると、社内結婚も増えていくかもしれません。でも、社内結婚かそうでないかにかかわらず、男性社員がもっと育児休業を取得したり、時短制度を活用しやすくなるなどの風土づくりが必要になってくると思います。

**原岡：**私の部署の男性も育児休業を取得しました。「しっかり取得しなさい」と申し伝えましたが、休暇は2週間程度でした。2週間以上、仕事から離れるのは心理的に怖いのだと、その時思いました。

**馬田：**そうですね。仕事から離れることに対する恐怖感みたいなものがあると思います。出張や研修等では2ヶ月くらいのブランクは平気なんですから、気持ちの問題ということもあるかもしれません。世の中には、「男性には2ヶ月間、社会勉強の期間として育児休業の取得を義務付けるべき」と提案する人もいるぐらいです。

**尾崎：**それはとても良いことだと思います。

私たちも男性と同じ条件で採用される訳ですから、同じような働きを求められます。ただ、家庭においての役割は恐らく、女性の方が多いと思うのですが、男性にはしっかりと体験してもらいたい所です。

**原岡：**最近は、夫婦で話し合い、男性が専業主夫という家庭もあるかと思います。ただ、これは私の想像なのですが、男性が公園デビューでママ友と仲良く一緒にやれるかと言ったら、たぶんママ友の方が受け入れてくれないかもしれません。会社内外ともに意識を変えていかなくてはなりませんので、簡単ではないと思います。

**馬田：**JFEエンジニアリングでは、保育施設「JFE保育園こどもの森」を運営していますが、利用状況はどうですか。

**原岡：**社員の車通勤を許可して利用を促進しています。土日は地域の方々への貢献も含めて、一般向けの一時保育も実施していますので、徐々に利用者は増えている状況です。

**大野：**JFE商事では、育児休業中の社員と情報交換する「Jママミーティング」を年3回のペースで開催しています。

**原岡：**育児休業もそうですが、介護も多くの人が直面する課題だと思います。今後は、在宅勤務制度を導入できればと考えています。全ての職種にまで広げることは難しいですが、ある程度の範囲に限定すれば、よい仕組みが構築できると思っています。

**馬田：**そうですね。JFEグループとしてもこれから先の様々な問題に対応していかなければなりませんし、柔軟な制度設計によって対応は十分可能だと思います。ところで、JFEグループは、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します」を企業理念に掲げておりますので、製造技術やノウハウの蓄積で成り立つ製造現場で育児休業などの制度を活用していただくためには、いろいろと



岡本 絵里子  
JFEホールディングス  
財務・IR部 IR室

### “製鉄の現場”に足を踏み入れた女性社員の体験談

**馬田：**私も製鉄所に20年以上勤務しておりました。当時の現場はまさに“男の世界”でしたから、女性が現場で働くことは、私にとっては未知のことです。現場で苦労している点を是非お聞かせください。

**谷垣：**普段仕事をしている事務所には女性用のシャワーやトイレを設置して頂いています。しかし、日々一人で担当地区の発電所や変電所といった各施設を車で数十分かけて巡回しているのですが、広大な製鉄所の中の各施設の女子トイレは、男性用に比べるとまだ数が少ないので困ることもありますね。

**高田：**私の職場でも女性用のシャワーやトイレを設置して頂いているのですが、簡易男子トイレに入っている男性を目にすることがあり、近くを通る際は、青空を見上げながら静かに立ち去るようにしています。逆に男性社員の方が慌ててらっしゃったりして(笑)。

**馬田：**広い製鉄所のあらゆる場所に女子トイレを設置するには多少時間を要すとは思いますが、しかし今後は製造現場で女性社員の方々が増えていく訳ですし、生活基盤の一つとして必要な投資は進めていきたいと思っています。

**谷垣：**改善された事例もあるんです。例えば、巡回先の発電所のドアが錆付いていたせいか凄く重くて開けられなかったのですが、使用頻度の高いドアは修理して頂きました。ただ、幾つか開けられないドアは、まだ存在しますけれど(笑)。

**高田：**そうですね。確かに悩みというか、まだまだこれからの部分はあると思うのですが、同じ社員、同僚として、先輩社員の方々が私たちを受け入れてくれているのはとても嬉しいことだと思います。娘のように(?)可愛がってくれるので仕事はとても楽しいですよ！







**大野 千枝**  
JFE 商事  
人事総務部 人材育成チーム



**當金 末由妃**  
ジャパン マリン ユナイテッド  
海洋・エンジニアリング事業本部  
技術部 計画グループ

課題がありますね。

**高田:** 私の場合ですと、グラインダー作業を1ミリ単位で削っていく際に、感覚が研ぎ澄まされていくに従って、「今、1ミリ削った、2ミリ削った」が感覚的にわかるようになってきます。ただ、期間が空くとその感覚は薄れていきます。また、パイプを転がして移動させる際も、同じ設備でも場所によってパイプの重さや曲がりが変わってきますので、長年続けていないとグラインダー同様、感覚は薄れていくと思います。

パイオニアとしてのこれからの目標

**馬田:** 現在 JFE グループでは、第4次中期経営計画(2012～2014年度)を進めています。国内収益基盤の強化や新商品の開発、プロセス技術の開発などに注力し、皆さん日々取り組まれていると思います。その一方で、グループ全体で女性の役割拡大にも努めています。そのような状況の中で、最後に皆さんの目標をお聞かせください。

**當金:** 私は海洋開発の仕事に携わっていますので、目標はやはり自分の設計した海洋構造物を造りたい。そしてドックから曳航され大海原へと旅立つ姿を、この目で見とりたいです。しかし現状は、韓国や欧米勢にアドバンテージがあり、日本は中々、海洋開発に参入できないというもどかしさがあります。

**馬田:** 確かに現状はそうですね。しかし、海洋開発は日本の中でも今一番脚光を浴びている分野の一つです。ジャパン マリンユナイテッドのブラジルの会社への出資も足掛りに、海上基地建設まで到達してもらいたいですね。

**當金:** はい。当社も合併後は海洋開発に関わる技術者が増えましたので、皆でこれから一旗あげよう!と頑張っているところです。ま

た、私の年代から技術職の女性が増えてきましたので、育児休業等の制度を周囲の理解も得ながら上手に活用し、後輩達の為に道を整備していくことも、私たちの仕事だと思っています。

**大野:** 入社時お世話になった先輩方は、多忙な中でも楽しく仕事をこなし、なおかつ上司からも頼りにされる存在でした。そんな先輩方を近くで見えていて、いつしか先輩方のように仕事をすることが私の目標になりました。現在は人材育成の担当をしていますが、若手社員から見てあの時の先輩のような存在に、私もなっていたいと思います。

**馬田:** JFE スチールでは、ダイバーシティ推進室を設置して女性の活躍の場を広げる取り組みを推進していますが、JFE 商事でもそのような人材育成プログラムはあるのですか。

**大野:** はい、実務を身に付けた中堅一般職を集めての工場見学などを開催しています。直近では、JFE スチールの製鉄所と JFE 物流の荷役ヤードの見学会を実施しましたが、普段携わる業務の現場を目の当たりにでき、参加者からは非常に好評でした。

**馬田:** JFE スチールや JFE エンジニアリングといった製造業と違い、商社は設備を持っていませんから、ノウハウや人の成長が全てですね。是非、活躍する女性を増やしてってください。

**原岡:** 私は、普通に女性が仕事をできる会社になって欲しいと思っています。全員社員で、ただ女性という個性を持っているだけです。私は事務系総合職女性として最初の採用だったのですが、男性社員が多い中で、それに合わせて上手く動くことを心掛けてきました。しかしその結果、他の社員の方々は、女性社員はこういうものという意識を持ってしまったかもしれない、それが後輩の女性達を縛っているかもしれないと思うよ

うになりました。皆が伸び伸びと自然体で仕事をできるようになって欲しいですし、その環境を作るのも私の役割と考え、最近は周囲に対し敢えて女性視点の発言もするようにしています。

**岡本:** 原岡さんのお話を伺いながら、まだまだやるべき事の多さに気づかされます。その一方で、入社して12年が経ちましたが、女性社員がコンスタントに入社するようになり、以前より特別な感じは薄れてきて、仕事のしやすさを実感しています。これから10年、20年と積み重ねることで、より多くの女性が活躍する素晴らしい会社になっていくと思います。個人的な目標で言うと、先日、入社当時の部長が退職されたのですが、その方から「今は一番大変だと思うが、40代になったら、きっと花が咲くから、その時まで一所懸命頑張れ!」という言葉を贈って頂きました。今の仕事に一所懸命取り組むことで社内外の信頼を得て、40代に花を咲かせたいと思います。

**尾崎:** 私の場合は、雇用機会均等法の施行後まもなく入社した世代の社員ということもあって、むしろ「新しい制度のもとで入社したのだから、フロンティアとして最後まで勤め上げよう」と思っていました。それが今でも一つの目標です。もう一つは研究部長として10年後に繋がる革新的な製品・技術の開発を成し遂げることです。一つでも多く開発して、現場の谷垣さんや高田さんに繋いでいきたいと思います。

**谷垣:** 頑張ります。私の入社した当時は、配属先で「女子が来るぞ」と少し壁がある感じでしたが、自分らしくいることで、今では皆さん受け入れてくださっています。ただ、私が今の職場での初めての女性社員ということもあり、“女性がどこまでできるか”の基準になるかもしれません。後輩となる女性社員達のためにも、あらゆる場面で手を抜

かずに精一杯やることを目標にしています。

**高田:** 私の目標は、製品の検査工程での資格を取得することです。まだ私は資格を持っていないため、その度に先輩を呼ばないといけません。それが悔しい。もう一つの目標は、溶接管工場において、造管部門と精整部門の連携をさらに良くすることです。高品質のUOE鋼管をより多く出荷することが、両部門の共通の目的ですから、「精整女子」の私と「造管女子」の同期の子で意見を出し合い、上司に提案していこうと思います。

**馬田:** 素晴らしいですね。是非、皆さんの職場で改善を進めてください。本日はお集まり頂き有難うございました。皆さんのお話を伺いながら、「さすが JFE のなでしこ達、皆さん芯のある方ばかり」と心底思いましたし、今後 JFE に入社される女性も大変心強いのではと思います。皆さんを模範として女性が JFE の中で生き活きと育っていく。そういう循環で、益々、女性が入社する会社になるのではないかな。そういう思いを抱きました。今後もダイバーシティを推進して、様々な個性を持った社員がもっと活躍していける職場環境作りに取り組んでいきたいと考えています。パイオニアとしての皆さんの益々の活躍に期待しています。



**高田 美緒**  
JFE スチール 西日本製鉄所(福山地区)  
溶接管部 溶接管工場





# ニッポン再生への貢献

～ JFEグループの取り組み ～

本特集では、長期にわたるデフレからの脱却、東日本大震災からの復興、2020年の東京オリンピック開催など、再生・発展への道を力強く歩き始めた日本に果たすJFEグループの取り組みを、『復興・国土強靱化』、『環境・エネルギー』、『技術・技能伝承』の3つの視点で紹介します。



仙台塩釜港のアーチ矢板ジャケット据付  
2013年2月

## 特集1 復興・国土強靱化 “ニッポン”

港湾岸壁の整備・補強：JFEスチールとJFEエンジニアリングのコラボレーション

### 優れた耐震性を誇る「アーチ矢板ジャケット」で日本の港湾を守る

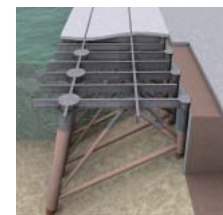
ジャケット栈橋を用いた港湾荷役岸壁は従来、埋立部には土留め矢板と控え杭を、海中部にはジャケット本体をそれぞれ分離した構造で設置していました。JFEエンジニアリングでは、耐震性をさらに高めることを目的に、ジャケット本体と円弧（アーチ）状の土留め矢板を一体化させた新技術「アーチ矢板ジャケット工法<sup>※1</sup>」を開発。この工法の開発に際して、JFEスチール<sup>※2</sup>は土留め矢板に関する耐震性の技術検討を担当、JFEエンジニアリングはジャケットと土留め矢板が接する一体化部分の技術検討を担当しました。

「アーチ矢板ジャケット工法」の特長は、土留め矢板の鋼重を大幅に低減し、且つ控え杭を不要にする点で、

全体工事費を20%削減し、全体工期も10%程度の短縮が可能です。このような高い技術と優れた経済性・短工期の特長が、国土交通省東北地方整備局から評価され、仙台塩釜港（宮城県）で採用されました。

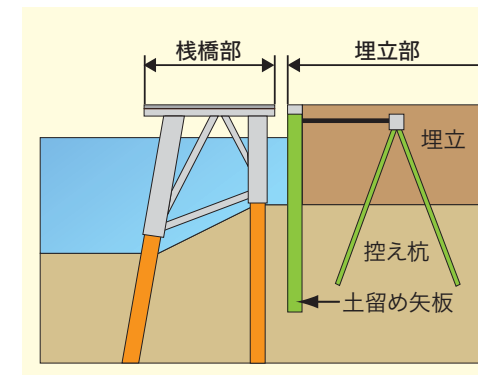
今後もアーチ矢板ジャケットの設置を通じて、震災復興をはじめ国際戦略港湾などに向けて貢献していきます。

※1 同技術は、国土交通省の新技术情報提供システム「NETIS」に登録されています。  
※2 共同研究開発には、独立行政法人「港湾空港技術研究所」も加わっています。



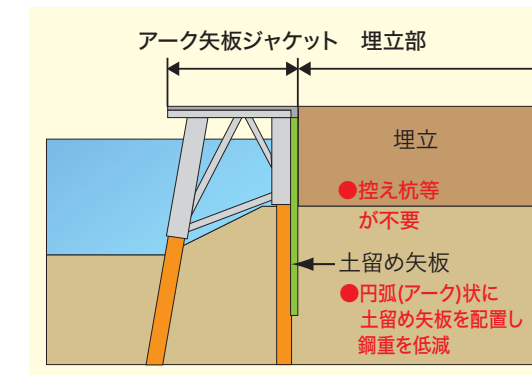
#### 従来のジャケット

栈橋部と埋立部が分離



#### アーチ矢板ジャケット

栈橋部と埋立部が一体化



### 「がんばり工法<sup>®</sup>」で日本の既設矢板岸壁を磐石にしたい

老朽化が進む日本の既設矢板岸壁は、補強や耐震強化を必要としています。従来の補強工法は一般的に、埋立部の地盤改良を行うと同時に、海中部の地盤を高強度に改良する工法でしたが、コスト高や工期の長さを問題点としていました。

こうした状況を改善するべく、JFEエンジニアリングとJFEスチールでは、補強技術「がんばり工法<sup>®</sup>」を開発、特許<sup>®</sup>を取得しました。本工法は、既設矢板岸壁の位置（岸壁法線）を変えずに、海中部にL形補強構造物（L型ブロックと鋼管杭）を設置し、既設矢板岸壁を補強する

ものです。鋼殻とコンクリートとを合成したL形ブロックは、予め工場で製作（プレファブ化）したもので、現地作業が少なく、従来工法と比較して工期を半減させることが可能です。さらに、高コストの地盤改良が不要であることから、全体工事費は従来工法の70%程度に抑えることが可能となり、従来工法の問題点が解決されます。

今後は、「がんばり工法<sup>®</sup>」の設置を通じて、拡大する既設矢板岸壁の補強・耐震強化ニーズに応えていきます。

※共同開発および特許取得にあたっては、東亜建設工業（株）も加わっています。



## 特集2 環境・エネルギー先進国“ニッポン”

### 最先端の熱加工制御技術を駆使した建築構造用高性能鋼材「HBL®440」で都市開発のスピードを加速

現在、大都市圏を中心に再開発が進められ、超高層オフィスビルやマンションといった多くの高層建築物が建設されています。高層建築物の建設には、高強度鋼材を用いた柱材が必要とされますが、従来から広く使用されている建築構造用高性能590N/mm<sup>2</sup>級鋼材「SA440」は、高強度と靱性を両立させるためにオフラインでの複数回の熱処理工程が必要となり、結果、発注から長期間の納期を必要としました。

こうした状況の打開に向けJFEスチールでは、最先端の熱加工制御技術を駆使した、建築構造用高性能590N/mm<sup>2</sup>級鋼材「HBL®440」を2012年5月に開発。2013年8月には板厚100mmまで製造可能範囲を拡大しました。

今回JFEスチールが開発したこの鋼材は、同社ナンバーワン先端技術の一つオンライン加速冷却装置「Super-OLAC®」を活用することで、オフライン熱処理工程を省略することが可能となりました。この結果、

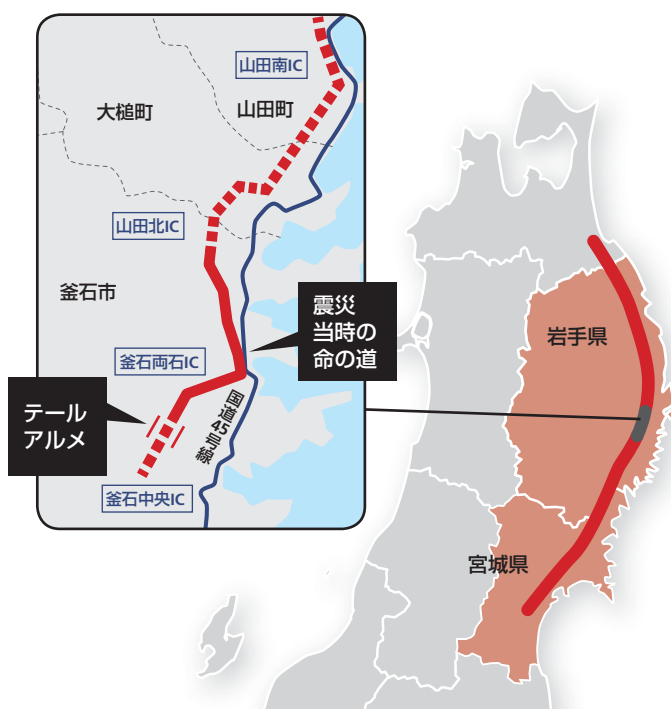
従来の鋼材に比べて約1カ月間の納期短縮を実現し、高層建築物の工期短縮に大きく貢献します。

今後もお客様のご要望に幅広くお応えすべく、付加価値の高い建築建材商品の開発に努めてまいります。

※OLAC：On-Line Accelerated Coolingの略。  
高冷却速度、高精度冷却機能を有するオンライン加速冷却設備。



### 東北の“命の道”を末永く支える補強土壁「テールアルメ工法」



東日本大震災後に“命の道”と名付けられた道路「釜石山田道路※」は、もともとは、釜石市と山田町を結ぶ国道45号線の渋滞緩和のために整備された道路です。震災前は、この道路を「いらないのでは？」という人も中にはいましたが今では誰もが“必要な道路”と思っています。その理由は、震災直後の釜石山田道路が、地元子供達の避難経路となり、また孤立状態の住民と避難所を繋ぐ貴重なライフライン（命の道）として、その役割を果たしてきたからです。

JFE商事グループでは、この“命の道”をはじめ、高い安全性と耐震性を誇る「テールアルメ工法」で被災地の復興に貢献していきます。

※釜石山田道路は、三陸沿岸道路（復興道路）全359kmの内の一部23kmです。  
概要：最高壁高19.48m、全長318.13m、壁面積4,331.9㎡。

### 磐石なエネルギーインフラを約束する耐震ラインパイプ「HIPER®」

JFEスチールが開発した耐震ラインパイプ「HIPER®」※1は、地盤変動による変形を受けても座屈しにくい高い変形性能を有した鋼管で、世界で初めて実用化された商品です。最先端の材質設計技術と、西日本製鉄所（福山地区）厚板工場のオンライン加熱設備「HOP®」※2を用いた当社独自の製造プロセスを融合して開発し、さらに、2011年に稼動した同工場の新加速冷却装置「Super-OLAC®-A」を適用して材質均一性を高めた商品を量産化しました。

「HIPER®」は特に過酷な環境で力を発揮し、地震地帯や土壌の凍結による隆起や融解による沈降の激しい不連

続凍土地帯などに用いられます。現在では、これら地盤変動の激しい地帯を通る世界各地のパイプラインに採用され、エネルギーの安全輸送に大きく貢献しています。

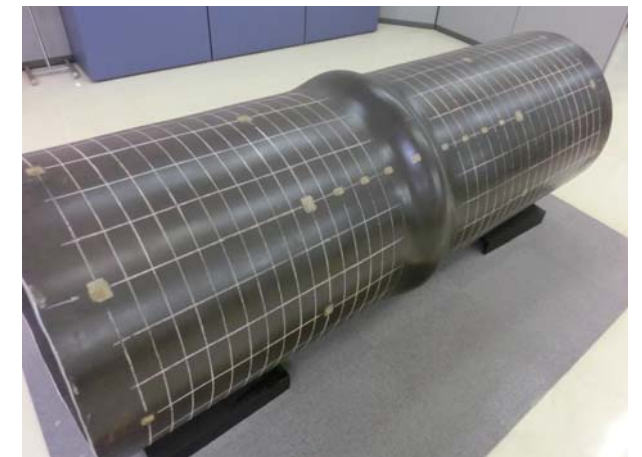
当社は今後とも、お客様のニーズにお応えできる最先端の技術革新、商品開発に注力し、高機能・高品質な鋼材商品の提供を通じて、世界の資源・エネルギー開発に貢献してまいります。

※1 HIPER®：Higher Performance for Earthquake Related Ground Movementsの略。

※2 HOP®：Heat-treatment On-line Processの略。  
厚鋼板を誘導加熱によりオンラインで熱処理する設備。JFEスチールのオンリーワン先端技術。



パイプラインの敷設（カナダ西部）



耐震ラインパイプ「HIPER®」

### 「HIPER®」開発の功績が高く評価され、国内外で数々の受賞！

耐震ラインパイプ「HIPER®」はお客様に性能が認められ、世界中に適用が広がっていますが、JFEスチールも当商品開発の功績が国内外で高く評価され、これまで数々の表彰を受けています。

2013年11月には、米国の技術情報誌である「R&D Magazine」が主催する「2013 R&D 100 Awards」に選出されました。同賞は、毎年その前年に販売された商品の中から最も技術的に優れた100の製品を表彰する

もので、「技術革新のアカデミー賞」とも言われています。

また、2014年3月にも公益財団法人大河内記念会より、「第60回大河内記念技術賞」を受賞しています。



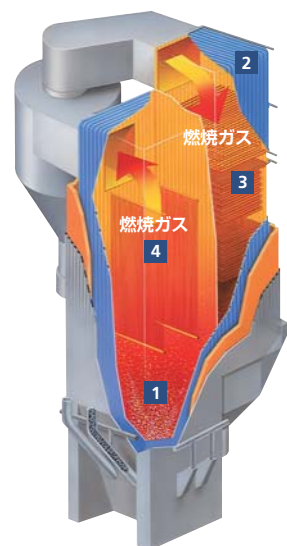
「2013 R&D 100 Awards」受賞発表会（米国フロリダ州）



## バイオマス・エネルギー

国産バイオ燃料の本格的導入や林地残材の活用によるバイオスタウン構築などを掲げる「バイオマス・ニッポン総合戦略」が推進され、化石燃料に代わるエネルギー源として期待されています。「バイオマス・ニッポン」実現に向け、JFEグループでも様々な形で一役買っています。

循環流動層  
ボイラ(CFB)



### 1 流動層燃焼室

投入された燃料は燃焼室底部からの燃焼用空気で流動化され燃焼

### 2 水冷壁

ボイラ周囲にメンブレン式の水冷壁を採用し熱損失を低減

### 3 過熱器

燃焼ガスと蒸気条件に応じ最適な構造を選定

### 4 炉内ウィングパネル

燃焼室内に高耐久性のウィングパネル(蒸発器または過熱器)を設置

## バイオマス発電プラントを相次いで受注

2012年7月の再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の導入によって、「太陽光」、「地熱」、「風力」などの発電事業化が進められる中、JFEエンジニアリングは全国各地でこれらの発電プラントを手掛けています。その一つであるバイオマス発電は、「循環流動層ボイラ(CFB)」を使用したプラントで、国産の木質チップや東南アジアから輸入されるパームヤシ殻(PKS)などを燃料としています。

JFEエンジニアリングは、バイオマス発電プラントの設計・建設を相次いで受注しており、2013年8月には、昭和シェル石油(株)から受注しました。神奈川県川崎市に建設されるこのプラントは、国内最大級となる49MWの発電規模です。



## バイオマス発電燃料の供給体制を強化

バイオマス発電の事業化において、「燃料をいかに確保するか」が発電事業者にとって重要な要素です。油ヤシに実る果実から採ったPKSは、主に東南アジアなどから輸入されており、燃料として期待されています。こうした中、JFE商事では、マレーシアで進めてきたPKSの日本への供給体制を強化し、バイオマス発電の普及に貢献しています。日本国内では、FIT導入後、発電事業化が相次いでおり、2016年以降、PKSの年間需要は約100万トンに上る見込みです。

鉄鋼製品を運んだ船の復路便を利用し、主に日本のお客様に向けて出荷、2017年には現在の2万トンから

20万トンへと出荷量を増加させる予定です。異物の少ないパーム油工場との直接契約による調達、そして日本に近く混雑の少ないラハダツ港の利用といった強みを活かし、バイオマス発電燃料の安定供給を図ります。



今後ニーズが活発化する中、JFEエンジニアリングのプラント技術とJFE商事の燃料供給とのコラボレーションで事業化提案を推進し、バイオマス発電の普及に貢献してまいります。

## 特集3 “ニッポン”を支える技術・技能伝承

### 次のJFE世代へ「鉄づくりの技術」を伝承するテクニカルエキスパート

現在、日本の多くの製造現場において、団塊世代の大量退職による世代交代が進んでおり、若手社員への技能伝承が課題となっています。当社においても鉄の製造現場を支える熟練社員の定年退職が本格化しており、既にJFEスチール発足以降に入社した社員の割合が約40%にまで達しています。今後更に世代交代が進むことから、「鉄づくりの技術」の若手社員への伝承が急ぎ求められています。

JFEスチールではこれまでも、独自に開発した「人材育成システム」を用いて社員ごとの技能レベルを可視化し、各社員の能力・弱点に応じた教育を行うなど、若手・中堅社員への技能伝承の取り組みを積極的に進めてきました。

その一方で、トラブル時の対応など低頻度作業の技能・ノウハウ習得については、従来の教育のみではレベルアップが難しく、技能伝承を進める上での課題となっていました。

こうした状況の改善に向け、JFEスチールでは、2013年10月より東西製鉄所・知多製造所の職場ごとに、人材育成の専任者「テクニカルエキスパート」を配置す



る新しい取り組みを開始しました。鉄づくりの知識やノウハウを豊富に持つベテラン社員や再雇用したOBを製造ラインごとに教育専任者として配置し、トラブル対処時の訓練や教育資料の作成などを進める取り組みです。現在100名のテクニカルエキスパートを配置しており、今後更に必要な職場へ拡大していく予定です。

従来の定常作業を中心とした技能教育に加えて、今回の取り組みを全社に展開していくことにより、ベテラン社員が持つ「鉄づくりの技術」を確実に「次のJFE世代」に伝承していきます。

### 一流のモノづくり技術者を養成する溶接道場「Win&WeDGE」

JFEエンジニアリング鶴見製作所 重工工場では、技能継承のスピードアップおよび高度熟練技術者と若手のコミュニケーションの場の提供を目的とし、2013年3月に溶接技能修練道場「Win&WeDGE®」を開所。若手技術者が日々訓練を積み重ねています。

今後もニッポンを支える一流のモノづくり技術者養成に向け、邁進していきます。

※ Welding innovation & Welder's Dojo for Global Equipment



溶接訓練ブースでの訓練

### 蓄積された日本のノウハウを世界規模で伝承

JFE商事は、世界各地に16カ所の鋼材加工センターを展開しています。各鋼材加工センターが所在する現地で社員を雇用していますが、入社時には鉄鋼製品を見るのが初めてという方もいます。そのような状況下、現場で必要とされるノウハウを教え込むのがJFE商事グループ国内外の鋼材加工センターより派遣される日本人技術者達。各加工拠点の立上げ段階より常駐し、各国で現場オペレーションは勿論のこと、安全・品質管理に至るまでの伝承に国境を越えて努めています。



タイの自動車鋼板専用の鋼材加工センター SASC でも現場ノウハウを伝承中



## JFE グループの概況



## JFE グループ

JFEグループは、2002年、NKKと川崎製鉄が持株会社「JFEホールディングス」を設立してスタートしました。以来、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献する」ことを企業理念に、21世紀のエクセレントカンパニー集団を目指しています。

# 「鉄」を中核とした “素材の可能性”を社会に 幅広く活かしています

## 持株会社

## JFE ホールディングス

戦略機能を発揮して企業価値を最大化

JFEホールディングスは、持株会社として、グループ全体の経営戦略策定や資金調達を行うとともに、上場会社として、対外的な情報発信を担ってきました。また、事業会社は、事業分野ごとの特性に応じた最適な業務執行体制により、競争力の強化と収益力の拡大を通じて企業としての持続的な成長を図り、企業価値の向上に努めています。

## 鉄鋼事業

## JFE スチール

オンリーワン・ナンバーワン  
商品をグローバルに展開

世界トップクラスの鉄鋼一貫メーカーです。東西2大製鉄所体制による高い国際競争力を持ち、世界有数の技術と商品開発力を活かしたオンリーワン・ナンバーワン商品および各種高付加価値商品を製造・販売しています。



## エンジニアリング事業

## JFE エンジニアリング

環境、エネルギー分野で  
最新技術を提供

コアとしている都市環境・エネルギー分野では、多様な資源をクリーンエネルギーとして有効利用するための技術を提供しています。また、橋梁などの鋼構造や産業機械の分野にも展開しています。



## 商社事業

## JFE 商事

グループ中核商社として、  
新たな価値を創造

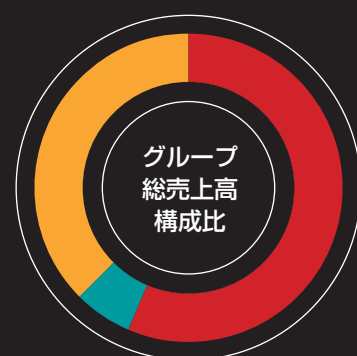
鉄鋼製品の取扱いを中心に、鉄鋼原料・非鉄金属・化学品・燃料・資機材・船舶の国内取引および輸出入取引を行い、食品・エレクトロニクス事業も展開しています。



(持分法適用会社)  
ジャパン マリンユナイテッド

省エネ技術を強みに  
グローバルなニーズに対応

7事業所・工場、2技術研究所体制で、タンカー・ばら積船・コンテナ船などの大型一般商船や護衛艦・掃海艇などの各種艦艇、砕氷艦の建造、修繕を手がけています。



3兆6,668億円  
(2013年度)

JFE スチール	73.4%	(2兆6,916億円)
JFE エンジニアリング	7.7%	(2,841億円)
JFE 商事	48.6%	(1兆7,813億円)

※グループ内取引調整額 △29.7% (1兆902億円)



## 鉄鋼事業の概況と特徴

次の10年を見すえた技術開発に注力するとともに、世界有数のグローバル鉄鋼サプライヤーとしての地位を確立していきます。

JFEスチールは、世界トップクラスの生産規模と高い技術開発力を有し、増大する高級鋼の需要に応えてきました。今後も次代を担う独自性や機能性の高い商品の開発を積極的に推進し、国内のお客様に安定的にお届けしていくとともに、海外メーカーとの提携などにより高級鋼の製造・販売ネットワークの構築を進め、世界各地へ優れた商品を提供していきます。また、地球環境問題など社会のさまざまなニーズにお応えするべく、挑戦し続けてまいります。



代表取締役社長（CEO）  
林田 英治

## 大型高炉を保有する2つの大規模製鉄所

東日本製鉄所の千葉地区は、戦後、わが国で初めて建設された鉄鋼一貫の臨海製鉄所です。また、京浜地区は、川崎・横浜両市にまたがる東京湾に浮かぶ約550万㎡に及ぶ人工島、扇島を中心に立地しています。

西日本製鉄所の福山地区・倉敷地区は、深い港湾があるなど優れた立地条件にあり、敷地面積は両地区で東京ドームの約540倍に相当します。両製鉄所とも世界最大級の大型高炉を持ち効率的な生産体制を構築しています。

また、知多製造所は、中京工業地帯に立地し、油井管やラインパイプをはじめ、各種鋼管の品揃えが世界一の鋼管専門工場です。



西日本製鉄所（倉敷地区）高炉

## お客様満足度の徹底追求によるJFEブランドの確立

お客様に選ばれる「JFEブランド」の確立に向けて、商談、商品設計から製造・デリバリー・品質保証までの一貫したサービス・サポート体制の強化に取り組み、お客様満足度の徹底追求を図っています。



西日本製鉄所（福山地区）製品出荷



小径シームレス鋼管

## JFEスチール製造拠点

## 西日本製鉄所



福山地区



倉敷地区

## 東日本製鉄所



千葉地区



京浜地区

## 知多製造所



知多製造所





## JFE グループの概況

## 国内製造基盤の整備

国内製鉄所および製造所の操業安定化・コスト競争力の向上を目的に、足元の重点課題として設備・人の両面での製造基盤整備に取り組んでいます。設備については、稼働から年月が経過して効率が落ちてきた設備を中心に、補修・リフレッシュ工事を積極的に進め、設備の競争力を維持・強化していきます。具体例としては原料荷役・搬送設備の集中補修やコークス炉などの設備更新を進めてい

ます。人については、団塊世代の大量退職により、全社的に大幅な世代交代を迎える中、ベテラン社員の技能を若手に伝承するため、2013年10月より職場ごとに人材育成の専任者を配置する「テクニカルエキスパート」を導入しました。人材育成専任者にはベテラン社員や再雇用したOBを活用しており、トラブル時の対応などを中心とした技能伝承を着実に進めています。



コークス炉設備(倉敷地区)



原料荷役設備(福山地区)

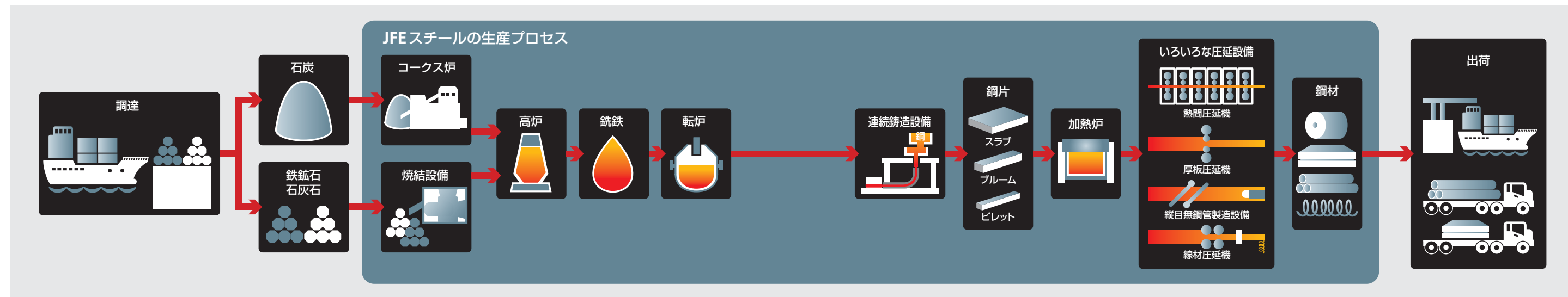
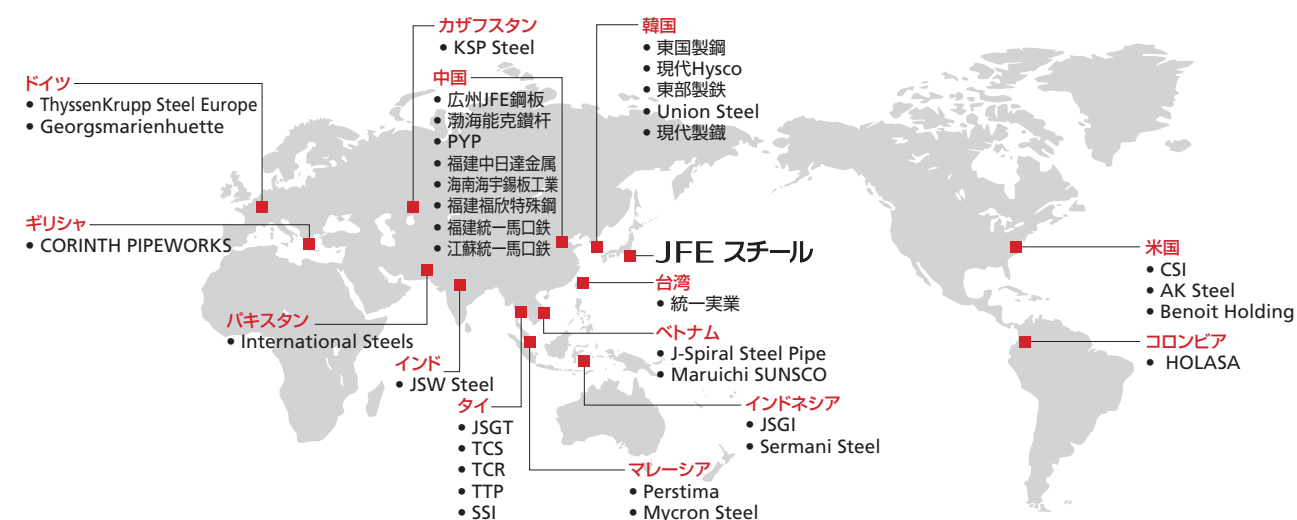
## 伸びゆく世界市場へ着実にアクセス

世界の鉄鋼マーケットは今後も拡大が見込まれています。これら増大する需要に対応するため、JFE スチールでは輸出拡大に加え、さまざまな施策を実施しています。自動車用鋼板の供給体制整備については、成長市場である中国、インド、東南アジア地域で各国のアライアンス先を通じて高級鋼の製造・販売ネットワークを確立しています。中国では、50%出資する広州JFE鋼板で冷延ミル、溶融亜鉛鍍金ラインを順調に稼働しており、タイでは昨年、100%出資するJFE スチール ガルバナイジング(タイランド)(JSGT)で溶融亜鉛鍍金ラインが稼働。インドでは、

戦略的提携先であるJSWスチール社で、当社が自動車用鋼板の製造技術を提供したビジャナガル製鉄所の第二冷延工場が稼働しました。さらにインドネシアでも、当社が100%出資するJFE スチール ガルバナイジングインドネシア(JSGI)にて溶融亜鉛鍍金ラインの建設を進めています。

また世界的に需要が拡大するエネルギー鋼管についても供給体制整備を進めており、当社が50%出資するカリフォルニアスチール(CSI)社が建設を進めていたNo.2電縫管製造設備が2014年8月に稼働する予定です。

## ■ 主要な出資・アライアンス先





# Highlights 2013

## 2013年4月

- 革新的な高炉原料「フェロコークス」の長期製造実験と実高炉における使用実験を実施
- 「施工性に優れたスプレー移行型炭酸ガスアーク溶接技術の開発」で科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）を受賞

## 5月

- 西日本製鉄所（福山地区）が世界で初めて累計粗鋼生産量4億トンを達成
- 中国浙江省において自動車用鋼管の製造及び販売を行う合弁会社設立に合意
- 西日本製鉄所（福山地区）第3製鋼工場において転炉を増設し、最新の溶銑予備処理プロセスを導入することを決定
- 東日本製鉄所（京浜地区）、西日本製鉄所（福山地区）でまつりを開催

## 6月

- 「ハイブリッド潤滑による冷間タンデムミルの高速圧延技術の開発」が 日本塑性加工学会賞 大賞を受賞
- インドネシア初の自動車用溶融亜鉛鍍金ラインを、西ジャワ州ブカシ県に建設することを決定
- 第21回J1 活動JFEスチールファミリー大会開催

## 7月

- 排熱を利用した熱発電技術の実証試験を実施し、製鉄所内での有効利用を確認
- 西日本硬式野球部が都市対抗野球大会に出場

## 8月

- 国内最厚の建築構造用ロール成形角形鋼管「JBCR295」を商品化
- 建築構造用高性能590N/mm<sup>2</sup>級TMCP鋼材「HBL®440」の製造板厚範囲を拡大

## 9月

- 「超高層ビルの安全性と経済性向上に貢献する超大入熱溶接用高強度鋼板の開発」がものづくり日本大賞経産大臣賞を受賞



### 自動車用鋼板の海外供給拠点を拡大

アジアを中心とした自動車用鋼板の需要増加ならびに現地調達要望に応えるべく、海外での供給体制の整備を進めてきました。

タイではJFEスチール ガルバナイジング（タイランド）の溶融亜鉛鍍金工場が稼動し、2013年11月に開所式が開催されました。

インドでは、当社が建設・立上げを支援し、自動車用鋼板の製造技術を供与したJSWスチール社ビジャナガール製鉄所の第2冷延工場が稼動しました。

またインドネシアにおいても、JFEスチール ガルバナイジングインドネシアがインドネシア初の自動車用溶融亜鉛鍍金工場の建設を決定しました。現在、2016年3月の稼動に向けて建設工事を進めています。

### 西日本製鉄所（福山地区）が世界で初めて累計粗鋼生産量4億トンを達成

西日本製鉄所（福山地区）の累計粗鋼生産量が、2013年5月に4億トンに達しました。1966年7月に第1分塊工場が稼動してから46年10カ月での達成で、単一事業所としては世界で初めてとなります。



### JFEスチールグループにおける棒線事業を統合

JFEスチールおよびJFE条鋼は、2014年4月より両社の棒線事業を統合しました。具体的にはJFE条鋼の販売、技術サービス、研究部門をJFEスチールの棒線事業に移管・統合し、JFEグループの棒線商品を「JFEスチール」に統一します。今回の事業統合により販売力を強化し、国内市場のシェア拡大ならびに自動車や建機などの高級鋼市場を中心に需要の伸びゆく海外市場での拡販を進めていきます。



### 野球部・競走部が大活躍

西日本野球部が都市対抗野球大会、東西両野球部が日本選手権大会に出場しました。両大会ともに地域の皆様と一体となった応援を繰り上げ、日本選手権では東日本野球部がベスト8の好成績を収めました。

また、競走部はニューイヤー駅伝に38年連続で出場を果たし、沿道からの大きな声援を受けて力走しました。



### 世界初「X80グレードの管厚1インチ電縫鋼管」を開発・初受注

JFEスチールは世界で初めてAPI（米国石油協会）規格 X80グレードの管厚1インチ電縫鋼管を開発し、石油・天然ガス掘削機器製造で世界最大手のDril Quip社及びGE Oil&Gas社から油井管の外殻用電縫鋼管として初受注しました。今回開発した高強度・厚肉電縫鋼管は、今後海底パイプラインに使用される高級ラインパイプ分野などへの応用も期待されます。



### 第5回ものづくり日本大賞（経済産業大臣賞）を受賞

JFEスチールが開発した「超大入熱溶接用高強度厚鋼板」が、第5回ものづくり日本大賞の経済産業大臣賞を受賞しました。この賞は、「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくために、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や今後を担う若手人材など特に優秀と認められる人材等を表彰する制度です。当社は3回連続の受賞となりました。

## 10月

- メキシコ湾超深部ガス田開発プロジェクト向けに、油井管1,900トン納入
- 横浜市と鉄鋼スラグ製品を用いた生物の生息環境改善および水質浄化の向上を検討する共同研究を開始
- 東日本、西日本硬式野球部が日本選手権大会出場
- 東日本製鉄所（千葉地区）でまつりを開催

## 11月

- 耐震ラインパイプ「HIPER®」が「2013 R&D 100 Awards」を受賞
- JFE スチールガルバナイジング（タイランド）の開所式を開催
- 第22回J1 活動JFEスチールファミリー大会開催
- 西日本製鉄所（倉敷地区）、知多製造所でまつりを開催

## 12月

- 飛躍的に加工性を高めた新高炭素熱延鋼板「スーパーホット®-G」を開発

## 2014年1月

- JFEスチール競走部がニューイヤー駅伝で力走
- JFEスチールグループにおける棒線事業の統合を決定

## 2月

- 東日本製鉄所（千葉地区）熱延工場が累計生産量2億トンを達成
- 「高靱性電縫管の溶接品質オンライン検査システム」が新機械振興賞 会長賞を受賞
- 世界初「X80グレードの管厚1インチ電縫鋼管」を開発・初受注

## 3月

- 使用済みプラスチック微粉化技術「APR」が岩谷直治記念賞を受賞
- 旋削性およびドリル切削性に優れた焼結機械部品用鉄粉「JIP クリーンミックス JFM®X」を開発
- 耐震ラインパイプ「HIPER®」が、第60回大河内記念技術賞を受賞



## エンジニアリング事業の概況と特徴

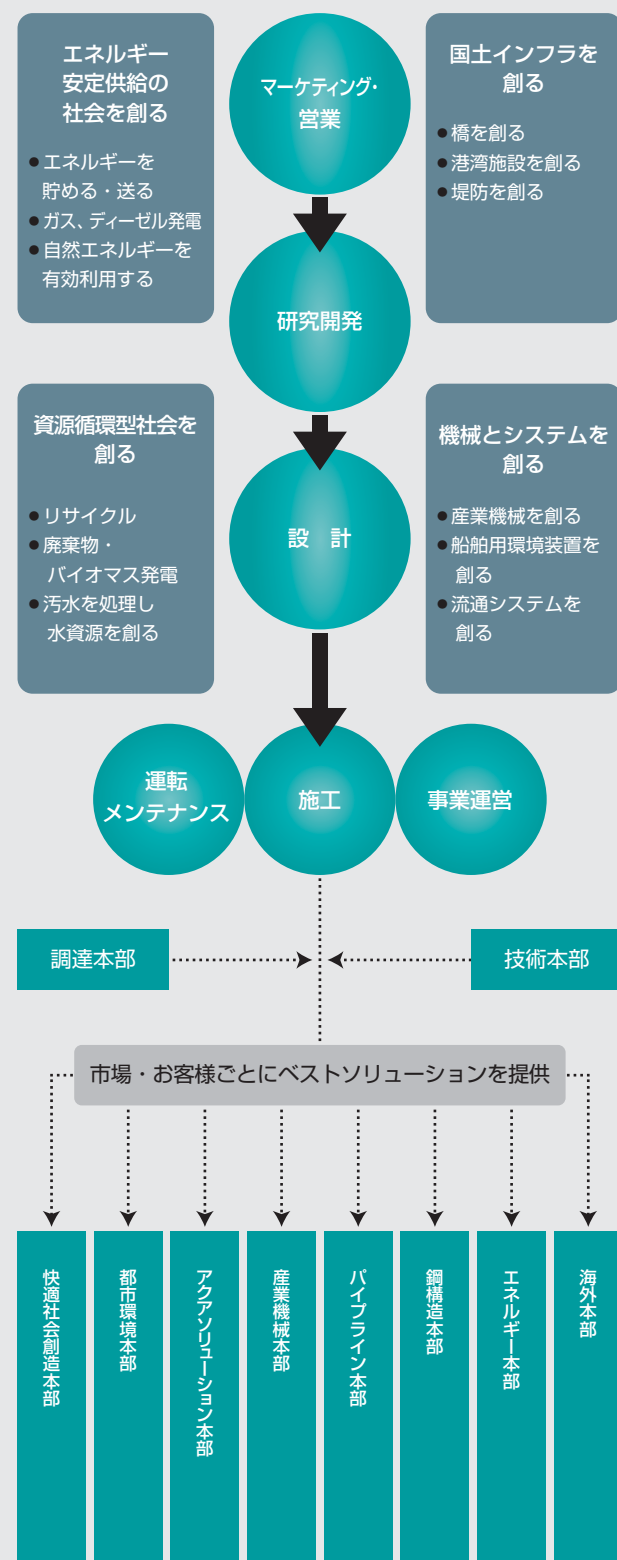
最先端技術力をベースとした商品・サービスの提供により、時代の変化に適応し、常に世界をリードするエンジニアリングカンパニーを目指します。

JFE エンジニアリングは、人々の生活と産業を支えるエンジニアリング事業を展開しています。天然ガス関連や廃棄物や下水汚泥をエネルギーとして利用する最新技術や豊富な実績を有しています。加えて近年では、太陽光・地熱・バイオマスなどの再生可能エネルギーによる発電プラントも数多く手掛けています。また、交通や物流、上下水などのインフラ建設においては、高品質の技術力を用いて、国内はもとより、諸外国の成長に大きく寄与しています。当社は「くらしの礎(もと)」を創る」企業として、これからも絶えず、社会に最適解を提供してまいります。



代表取締役社長（CEO）  
狩野 久宣

## 事業概要



## 事業提案から建設、運営までの一貫サービス

近年、エンジニアリング企業に求められる役割は変わりつつあります。当社は従来のプラント建設のみならず、プラントを活用した事業運営まで一貫して関わるビジネスを推進しています。都市環境・アクアソリューション分野ではPFIやDBO発注方式などの包括契約案件に積極的に取り組んでいます。また再生可能エネルギー分野では自社でプラントを所有し発電事業を行っています。



「長岡市生ごみバイオガス発電センター」PFI事業として当社が運営に携わります。



「J&M Steel Solutions」設立式

## 海外事業の拡大と現地化

当社は海外事業の持続的成長に向け、営業から設計、製作に至るまで一貫した現地化を志向しています。地域の事情に精通した人材の拡充を図るべく、合併による事業化やM&Aなどのアライアンスを強化します。ミャンマーでは同国建設省とインフラ建設のための合併会社「J&M Steel Solutions」を設立。2014年4月にヤンゴン市に同社の新工場が稼動しました。

## 新たな領域へのエンジニアリング展開

エンジニアリングの対象領域を農業や医療などの新たな領域にも広げ、新しいビジネスの創出に挑戦してまいります。スマートアグリ事業では、2014年7月に苫小牧市で第一号の農業生産プラントを稼動する予定です。最先端技術を駆使した最適な栽培環境を実現し、今夏よりトマトなどを出荷します。



「Jファーム苫小牧」完成予想CG



# Highlights 2013

## 2013年4月

- 新開発の『ハイブリッド防潮堤』岩手県で初採用
- 人事制度改革（執務職廃止・派遣の正社員化）

## 5月

- 松尾八幡平地域で地熱発電掘削調査開始
- ミャンマーマロン橋完成
- フィリピンで下水処理施設受注
- 新潟でフェニックス大橋完成

## 6月

- 名古屋駅前オフィスビルでサイクルツリー受注
- JFEバラストエース全船種に対応
- 再生可能エネルギーの発電事業で業務提携
- 横浜港で日本最大のコンテナクレーン受注
- かりゆしでクール・ビス
- 圏央道の社家第一高架橋を完成

## 7月

- 新潟市中央卸売市場の基幹システム受注
- 東南アジア大学生のインターンシップ開始
- 長岡市バイオガス化プラント運営開始
- 津市「雲出ソーラーパワー」で発電事業を開始
- 富士川橋建設を受注 今年度最大級

## 8月

- 川崎で国内最大級バイオマス発電プラント受注
- 大型メガソーラー建設（釧路）を受注
- ウランバートル国際空港旅客ターミナル建設工事受注
- 都市環境プラント基幹改良工事連続受注

## 9月

- 北陸農政局より国内初の農業用水用鋼製調圧水槽を受注
- 川越火力LNG設備増強、伊勢湾横断ガスパイプライン竣工

### 松尾八幡平地域で地熱発電掘削調査開始

当社が出資する岩手地熱は事業化に向けた掘削調査に着手しました。出力7,000kW級の発電設備による送電開始を目指し、各種調査を進めています。



### 新潟でフェニックス大橋完成

長岡と上越を結ぶ国道404号の信濃川横断部の橋梁です。橋長870m、鋼材重量4,400トンの橋梁で、約3年に渡る製作架設を行い完成しました。



### かりゆしでクール・ビス

省エネへの取組みの一環として、沖縄の正装かりゆしを全社導入



### 東南アジア大学生のインターンシップを開始

4カ国から21名受入れ、各国の発展において不可欠なプロジェクトリーダーとなる人材を育成します。



### インドネシアで廃熱回収発電設備を受注

CO<sub>2</sub>削減の二国間クレジット制度(JCM)の適用を受け、インドネシア国営セメント会社から受注しました。



### 津市「雲出ソーラーパワー」で発電事業を開始

この他に当社は、倉敷市や栃木県芳賀町等でメガソーラーを建設し、全国8カ所で発電事業を行います。



### 釜石港向けハイブリッドケーソン防波堤製作完了

津製作所大型海洋ドックで製作した釜石港湾口防波堤ハイブリッドケーソン2函を、釜石に向け海上出荷しました。



### ミャンマー初の道路高架橋が完成

ヤンゴン市中心部にシェゴンダイン橋が完成し、渋滞を劇的に解消しました。



### 気仙沼港で当社新製品防潮堤を受注

当社のハイブリッド防潮堤は、現地で基礎鋼管杭を施工している間に工場で堤体ブロックを製作し、工期を半減します。



### JFE環境 低濃度PCB廃棄物の無害化処理を開始

首都圏に大量保管されているPCBを安全に処理するため、横浜エコクリーン工場が神奈川県内で初めて環境大臣認定を取得しました。



### 磯村豊水機工と上水プラント事業を統合

水ビジネス分野で上下水ワンス・トップサービスの体制を構築し、国内外で事業拡大を目指します。



### 宮城県内の震災がれきの処理が終了

当社が受託していた震災がれき処理は順調に完了しました。宮城県4カ所の総焼却処理量は約44万トンにのぼります。



### インドネシアで地熱発電所の蒸気供給設備 据付完了

パトハ発電所は2014年内に発電を開始する予定です。地熱大国インドネシアでは多くのプラントが計画されています。

## 10月

- マニラ・ボブラシオン下水処理場が国際水協会Innovation賞受賞
- 倉敷市「鶴の浦ソーラーパワー」稼働開始
- インドネシアで廃熱回収発電設備を受注
- 快適社会創造本部発足
- 神奈川県企業庁より箱根地区水道事業受注

## 11月

- 機械式駐輪場配置設計用CADデータ公開
- 脳卒中用新PET検査システム香川大より初受注
- 苫小牧営業所を開設
- 磯村豊水機工と上水プラント事業を統合
- ミャンマー「J&M Steel Solutions」を設立

## 12月

- 高知県香南清掃組合より都市環境プラント受注
- 宮城県内の震災がれきの処理が終了
- ミャンマー初の道路高架橋が完成

## 2014年1月

- アクアソリューション本部発足
- 釜石港へ向けハイブリッドケーソン防波堤製作完了
- 南九州営業所を開設
- ヤンゴンのフェリー桟橋改修受注

## 2月

- 気仙沼港で当社新製品防潮堤を受注

## 3月

- 自社事業最大の栃木県「芳賀ソーラーパワー」稼働開始
- スマートアグリ生産プラントの起工式開催
- JFE環境 低濃度PCB廃棄物の無害化処理を開始
- 圏央道の2地区の高架橋を相次ぎ完成
- インドネシアで地熱発電所の蒸気供給設備 据付完了
- 京大・阪大病院へ非常用電源として当社ガスエンジン引渡し



## 商社事業の概況と特徴

JFEグループにおいて、先駆けとしてマーケットを切り拓き、新たな価値創造に向け、商社機能を最大限に発揮していきます。

JFE商事は、鉄鋼製品の取扱いを中心に、鉄鋼原料・資機材などの国内取引、輸出入、三国間取引を行い、食品・エレクトロニクス事業も展開しています。重要なビジネス基盤である国内市場では、お客様ニーズを常に満たすため、最適な販売体制を築いています。海外では、アジアを中心に拠点を広げ、中近東・アフリカなどの有望な市場の開拓も進めています。また、JFEグループ各社向けに、安定的に原料を供給するため、資源開発プロジェクトにも積極的に参画しています。

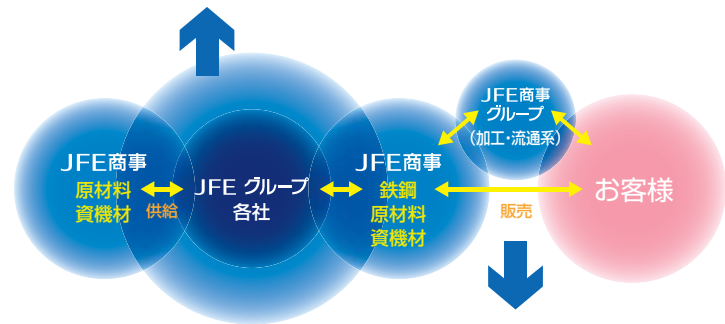
JFE商事はこのような商社機能を活かし、JFEグループの中核商社として果敢に挑戦してまいります。



代表取締役社長（CEO）  
矢島 勉

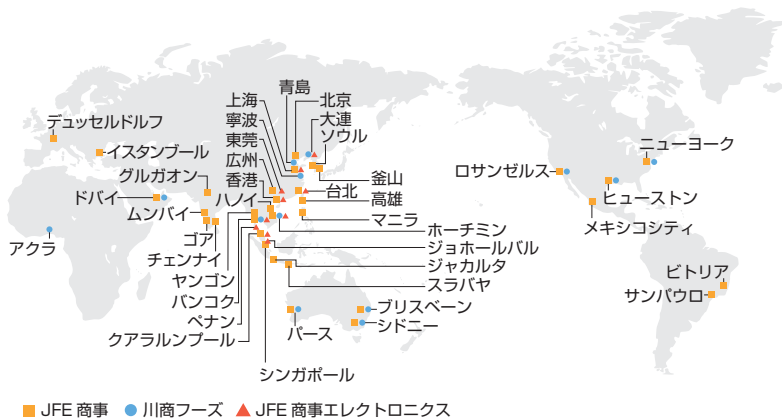
## 鉄鋼事業

国内外における競争力向上に向け、技術サービスも含めた原料調達から、お客様ニーズを捉えた製品の加工までを実施し、JFEグループの鉄鋼サプライチェーンの一翼を担っています。



## 世界に広がるネットワーク

JFEグループの中核商社として世界18カ国に51カ所の拠点をJFE商事グループとして有しています。2013年にはトルコ、2014年にはメキシコシティと今後の鉄鋼製品や鉄鋼原料取引の伸長が期待できる地域に拠点を設立し、JFEグループにおける先駆けとして、新規市場の開拓を推進しています。

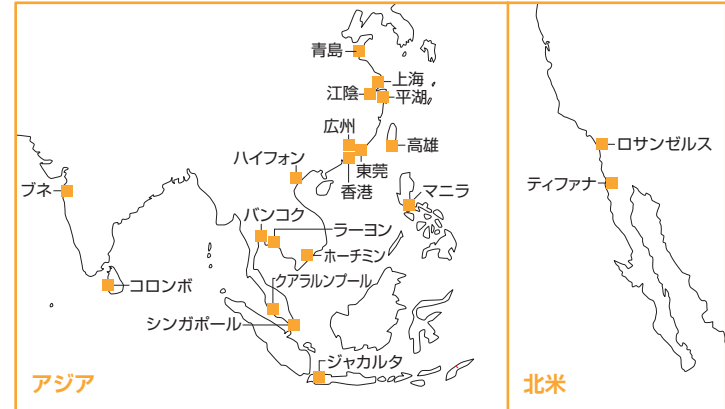


## 鋼材加工センターの強化

世界12カ国にグループ会社21社を展開。そのうち、アジアを中心に世界11カ国19拠点において鋼材加工会社を稼働中。



原材料・資機材



## JFEグループの海外展開にシンクロナイズした資機材販売の強化

## JSW スチール社との資機材取引

JFEスチールが資本提携しているインドのJSWスチール社へ、各種資機材の供給を推進。JSW・ビジャヤナガール製鉄所へ駐在員を派遣しています。



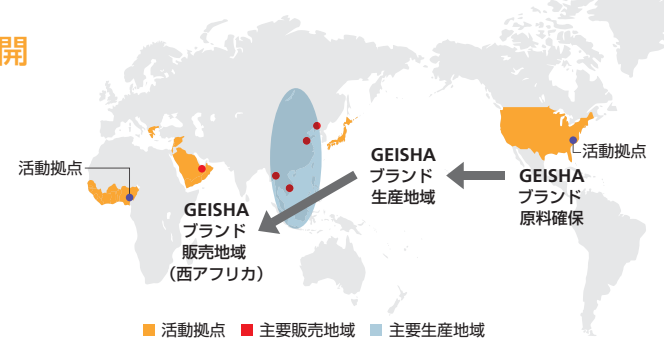
ビジャヤナガール製鉄所建設現場の皆さんと

## その他

## 【川商フーズ】

## 認知度の高いブランド品を展開

他社にない世界規模のサプライチェーンを活かして独自のブランド製品を西アフリカを中心に販売しています。



## Highlights 2013

## 2013年4月

- JFE商事 矢島社長新体制スタート
- JFE商事 イスタンブール駐在員事務所を開設
- JFE商事・JFE商事鉄鋼建材・JFE商事建材販売 JFE商事鉄鋼建材(株)とJFE商事建材販売(株)を統合
- JFE商事・JFE商事薄板建材・JFE商事薄板建材(株)とJFE商事薄板建材(株)を統合

## 2013年5月

- 川商フーズ 「AFRICAN FAIR 2013」にGEISHA缶を出展

## 2013年6月

- JFE商事 テルワン 「EE東北'13」にJFEグループで出展
- JFE商事 インドネシアにおける鋼材加工センター(JSSI)の第二工場建設について発表
- JFE Shoji Electronics Thailand Ltd. 「Nepcon Thailand 2013」に出展

## 2013年7月

- JFE商事 ベトナム北部における鋼材加工センターの設立について発表

## 2013年8月

- JFE商事 米国ASR社「FASTeK」システムの日本向け販売契約を締結

## 2013年9月

- JFE Shoji India Private Limited JSIの開所式を開催

## 2013年10月

- JFE商事グループ 「第1回JFE商事グループJ1活動発表大会」を東西両地区にて開催
- 川商フーズ コンビニフレッシュ「社員が本当にすすめる」のザキのコンビニフレッシュ」発売
- 川商フーズ 川商フーズが出資する浙江海興食品が本格稼働し、GEISHA缶のナイジェリア出荷を開始

## 2013年11月

- JFE商事 マレーシアにおける生ヤシガラ(PKS)販売会社を設立
- JFE商事 タイにおける鋼材加工センター(SASC)の設備を増強し稼働開始
- JFE商事 第5回J-SLIM発表会を開催
- 九州テック 同社の遊休地を利用した太陽光発電所が完成
- JFE Shoji Electronics Thailand Ltd. 「METALEX2013」にクリンビー社と共同で洗浄機を出展

## 2013年12月

- JFE商事 生ヤシガラ集荷ヤードの土地リース契約調印式
- JFE商事 漳州支店を開設
- JFE商事 メキシコシティ支店の開設

## 2014年2月

- JFE商事 JSSM Panasonic社シンガポール・マレーシア地区合同のAnnual Vendor Meetingでシンガポール支店およびJSSM社が優秀取引先として表彰





# ジャパン マリンユナイテッド

統合効果を最速かつ最大限に発揮し、業界トップの地位確立とさらなる成長戦略の実現を目指します。

ジャパン マリンユナイテッド(JMU)は、ユニバーサル造船とアイ・エイチ・アイ マリンユナイテッドが統合し、2013年1月に発足しました。

統合により結集・強化された「開発・技術力」、「営業力」、「大型建造設備」等の経営資源を最大限に活用し、商品ラインナップの拡充を図るとともに、省エネ・環境負荷低減技術の開発にいち早く取り組み、お客様のニーズに合った優れた性能と品質の船をタイムリーに提供します。



代表取締役社長（CEO）  
三島 慎次郎

## Highlights 2013

- 2013年4月**

  - 「2013 統合元年」全社運動スタート
- 2013年6月**

  - IHI、日揮と共同でブラジル造船会社アトランチコスル造船所に投資決定
- 2013年7月**

  - 福島復興・浮体式洋上ウインドファーム洋上サブステーション「ふくしま絆」が
- 磯子工場で完工、福島沖に向けて曳航

  - エコシップ 97BC 1番船【SHOYOH】呉事業所で完工・引渡し
- 2013年8月**

  - エコシップ Gシリーズ209BC 1番船【CAPE GREEN】有明事業所で完工・引渡し
  - 国内最大級のヘリコプター搭載護衛艦「いずも」磯子工場で命名・進水

### JMUエコシップ、出航！

9万7,000トン積載型石炭船の1番船「SHOYOH」は、二重反転プロペラ、排ガスパワータービン発電システム等の省エネ機器を搭載し、燃費を従来船に比べて16%改善しています。

また、「G」シリーズの1番船となる20万9,000トン積載型バルクキャリア「CAPE GREEN」も、世界初の廃熱回収コンバインド発電システム、低風圧居住区、最適運航システム「Sea-Navi®」等を搭載し、温室効果ガスを従来船に比べて25%削減するとともに、燃費を20%改善しています。



CAPE GREEN



SHOYOH



二重反転プロペラ

### 国内最大級の護衛艦「いずも」命名・進水

防衛省向け平成22年度計画ヘリコプター搭載護衛艦が横浜磯子工場で「いずも」と命名され、進水しました。本艦は、国内最大級の護衛艦となります。



進水後のいずも

### 福島復興・浮体式洋上ウインドファーム 運転開始

経済産業省からの受託事業である「福島復興・浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業」第1期工事では、JMUは25MVAの浮体式洋上変電所「ふくしま絆」の製造を担当し2013年11月から実証実験がスタートしました。



洋上変電所曳航中

### 戦略商品相次いで受注

JMUが受注を目指していた戦略商品である自動車運搬船、大型LNG船を相次いで受注しました。7,500台積み次世代自動車運搬船は既存船よりも大幅な積載車両数の増加と低燃費化を実現しています。また船主の意向を受け、温室効果ガス等の大気汚染物質の削減に率先して取り組み、日本を代表する各メーカーの最新鋭の機器を搭載予定です。

大型LNG船は、増設される新パナマ運河を通峡可能な汎用性の高い船型で、当社独自の技術であるSPB方式タンクを採用しています。



自動車運搬船



LNG 船

### 2013年9月

- 世界で初めて浮体式の没水型海洋温度差発電でNKより概念承認取得

### 2013年10月

- 多目的LNG貯蔵浮体でNKより概念承認取得

### 2013年11月

- 海上保安庁向け巡視船【あきつしま】磯子工場で引渡し
- 福島沖洋上ウインドファームが運転開始し、実証実験がスタート

### 2013年12月

- コンテナ船向けSPB方式LNG燃料タンクの共同開発合意
- 津田尚輝IHIMU元社長 交通文化賞を受賞

### 2014年1月

- 全社運動【原点回帰2014】スタート
- 世界最大級砕氷バルカー【NUNAVIK】津事業所で命名・引渡し

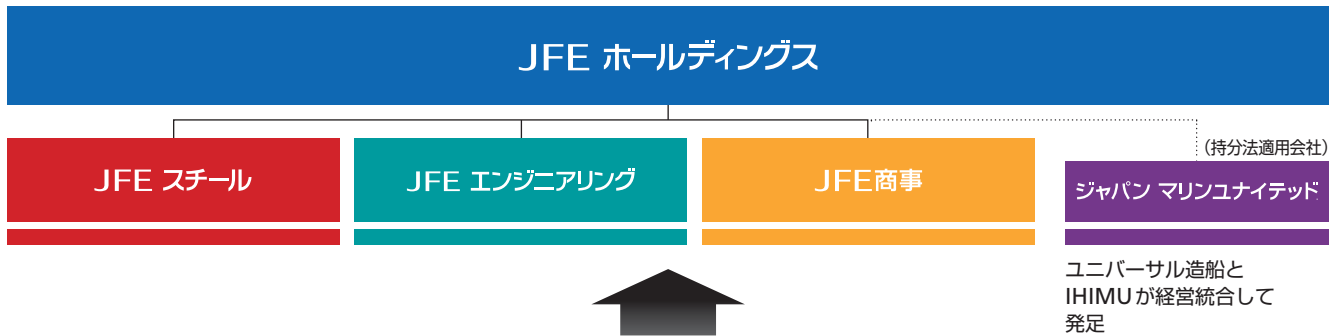
### 2014年2月

- 低燃費・低排出自動車運搬船受注
- SPB方式 大型LNG船受注
- スーパーマラッカマックス型VLCC 1番船【KYO-EI】有明事業所で完工・引渡し
- ツバル国向け国際航海貨客船を受注

### 2014年3月

- 鶴見工場がOSHMS認定取得

2013年1月1日～



2012年10月1日



2012年10月  
事業会社化

2008年3月  
持分法適用会社から  
事業会社へ

2011年4月  
JFEスチールに吸収合併

2012年7月  
メガチップスへ株式譲渡

2009年4月  
エンジニアリング分野の  
研究機能をJFEエンジニア  
リングへ移管、  
JFEスチールに統合

2003年4月1日 事業会社設立



2002年9月27日 JFEホールディングス発足

1969.7 千葉製鉄所西工場埋め立て開始 7	1971.12 京浜製鉄所扇島建設に着工 14
1961.7 岡山県倉敷市に水島製鉄所開設 6	1969.1 津造船所発足 13
1951.2 戦後わが国初の近代的銑鋼一貫製鉄所となる千葉製鉄所を開設 5	1968.4 京浜製鉄所を開設 (川崎・鶴見・水江の3製鉄所を統合 12)
1950.8 川崎重工業(株)の製鉄部門を分離・独立し、川崎製鉄(株)を設立 (初代社長 西山彌太郎) 4	1965.2 福山製鉄所を開設 11
1943.8 愛知県に知多工場を開設 3	1940.10 鶴見製鉄造船(株)(旧浅野造船所)を合併
1917.5 神戸市に畳合工場を開設 2	1936.6 最初の高炉に火入れし、銑鋼一貫体制を確立 10
1896.10 (株)川崎造船所を設立(のち川崎重工業(株)と改称)	1916.4 (株)横浜造船所を設立(のち浅野造船所に改称) 9
1878.4 川崎正蔵が東京築地に川崎築地造船所を創業 1	1912.6 日本鋼管(株)を設立(初代社長 白石元治郎) 8





# 持続可能な社会の発展のために

## お客様・お取引先様とともに

各種認証やマネジメントシステムを整備するとともに、お客様と一体となった商品開発施設を開設するなど、お客様ニーズに基づく高品質の商品・サービスの提供を通じて、お客様の競争力向上に貢献します。



研修風景

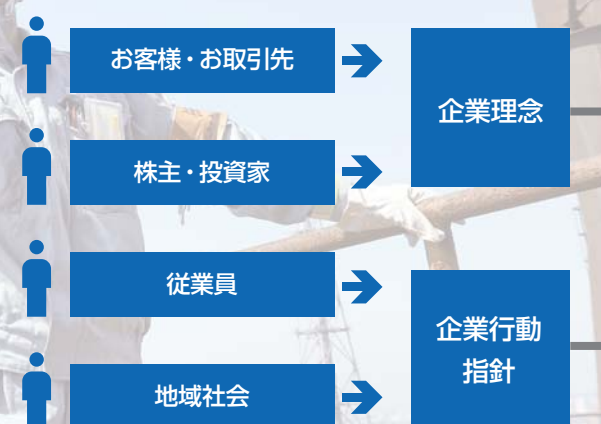
## 株主・投資家の皆様とともに

適時・適切な会社情報の提供を重視し、即時性の高いウェブサイトを活用しているほか、決算発表の早期化に努めています。また、事業活動への理解を深めていただくため、工場見学会やIR説明会を開催しています。



株主工場見学会

## 社会の発展



## 従業員とともに

多様な従業員が活力を持って働ける職場環境を目指して、雇用の促進や健全な労使関係の継続、女性社員の活用、安全で働きやすい職場環境の整備、障がい者雇用、人権を尊重した行動の促進などに取り組んでいます。



人材育成

## 地域社会の皆様とともに

事業拠点を展開する地域社会の発展に貢献するため、大学研究・教育分野の催し、文化活動や福祉活動、災害復旧活動への支援など、さまざまな社会貢献活動を継続的に実施しています。



ものづくり教室

JFEグループは、環境理念のもと、地球環境の保全に一層努め、環境と調和した企業として発展を目指すとともに、社会の要請に誠実に応え、幅広いステークホルダー、社会から信頼される企業を目指しています。

## 事業プロセスを通じて「エコプロセス」

鉄鋼事業の製造プロセスにおけるエネルギー効率は、省エネルギー設備の導入などを推進してきた結果、世界最高水準を達成しています。さらなるエネルギー効率の向上と革新的製鉄プロセス(COURSE50)の開発によりCO<sub>2</sub>削減活動を継続します。



京浜地区に導入された「Super-SINTER」

## 製品・サービスを通じて「エコプロダクト」

低炭素社会の構築に不可欠な高機能鋼材の供給や、リサイクル事業や再生可能エネルギーの取り組みなど、製品やサービスを通じたエコな社会の構築に貢献しています。



高強度厚板を使用した超大型オア・キャリア (鉬石専用船)

環境理念

環境方針

## 環境との調和

## 環境技術・製品を世界に普及「エコソリューション」

世界最高水準の省エネ技術や製品を、途上国を中心に世界各地に移転・普及させていくことにより、地球規模でのCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。



エコプロダクツ2013

## JFE グループCSR報告書 (2014年9月発行予定)

JFEグループCSR報告書では、社会・環境側面について、より詳細な情報を掲載しています。

 <http://www.jfe-holdings.co.jp/environment/>





データ編

主要経営指標 JFE ホールディングスおよび連結子会社

財務情報 株主・投資家の皆様へ URL <http://www.jfe-holdings.co.jp/investor/index.html>

	(百万円)				
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
経営成績(会計年度)					
売上高	2,844,356	3,195,560	3,166,511	3,189,196	3,666,859
営業利益	88,775	182,810	44,779	39,873	153,327
金利前経常利益 <sup>※1</sup>	88,752	182,268	68,075	66,588	187,622
経常利益	69,289	165,805	52,977	52,214	173,676
当期純利益	45,659	58,608	△36,633	39,599	102,382
キャッシュ・フロー(会計年度)					
営業活動によるキャッシュ・フロー	389,548	302,603	110,087	287,071	254,809
投資活動によるキャッシュ・フロー	△236,725	△302,282	△205,494	△163,616	△164,020
フリー・キャッシュ・フロー <sup>※2</sup>	152,822	320	△95,406	123,455	90,789
財務活動によるキャッシュ・フロー	△321,617	23,073	96,078	△147,550	△105,576
財政状態(会計年度末)					
総資産	3,918,317	3,976,644	4,007,263	4,107,519	4,241,700
有形固定資産	1,800,170	1,712,318	1,644,884	1,606,862	1,599,148
純資産	1,465,898	1,478,310	1,456,340	1,596,797	1,745,930
借入金・社債等残高	1,468,472	1,496,413	1,593,633	1,596,363	1,534,036
設備投資状況その他					
設備投資額	225,268	180,492	197,449	179,679	175,715
減価償却費	248,374	246,666	238,316	194,062	181,311
研究開発費	36,082	33,523	34,243	33,662	31,177
粗鋼生産量(千トン)	28,352	31,472	29,235	30,687	31,584
従業員数(人)	53,892	54,400	54,133	57,044	57,210
財務指標					
売上高経常利益率(ROS) <sup>※3</sup>	2.4%	5.2%	1.7%	1.6%	4.7%
総資産金利前経常利益率(ROA) <sup>※4</sup>	2.2%	4.6%	1.7%	1.6%	4.5%
自己資本利益率(ROE) <sup>※5</sup>	3.3%	4.1%	△2.6%	2.7%	6.3%
自己資本比率	36.3%	36.2%	35.3%	37.9%	40.1%
D/E レシオ <sup>※6</sup>	75.5%	76.5%	83.5%	76.9%	67.9%
1株当たり情報					
当期純利益(円)	86.35	110.73	△68.71	71.20	177.44
純資産(円)	2,689.88	2,708.51	2,627.63	2,700.83	2,950.61
配当金(円)	20	35	20	20	40

※1 金利前経常利益＝経常利益＋支払利息

※2 フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

※3 売上高経常利益率(ROS)＝経常利益/売上高×100

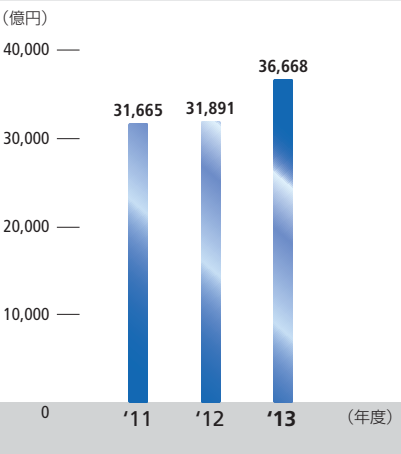
※4 総資産金利前経常利益率(ROA)＝(経常利益＋支払利息)/期中平均総資産×100

※5 自己資本利益率(ROE)＝当期純利益/期中平均自己資本×100

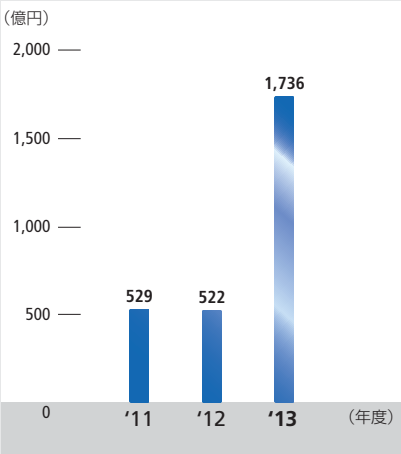
※6 D/E レシオ＝借入金・社債等残高/自己資本×100

但し、格付け評価上の資本性を併せ持つ負債(3,000億円)について、格付機関の評価により、75％を資本に算入。

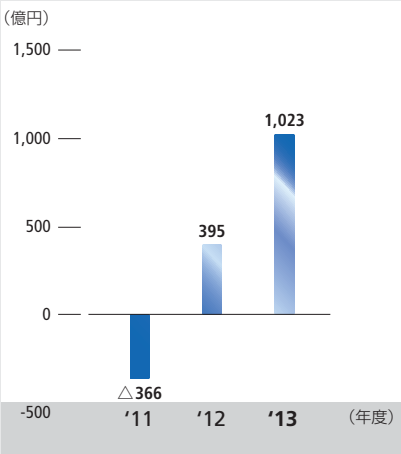
売上高



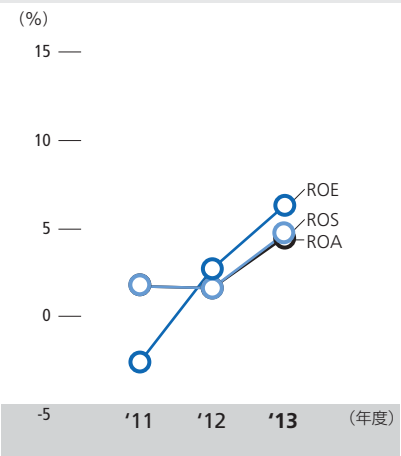
経常利益



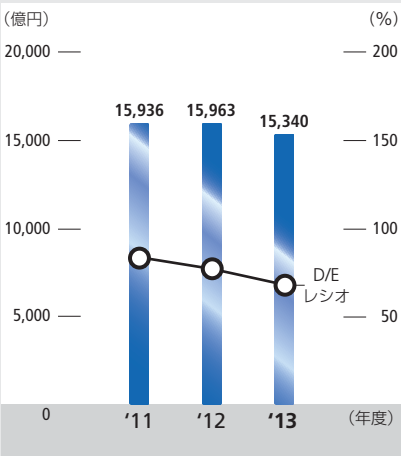
当期純利益



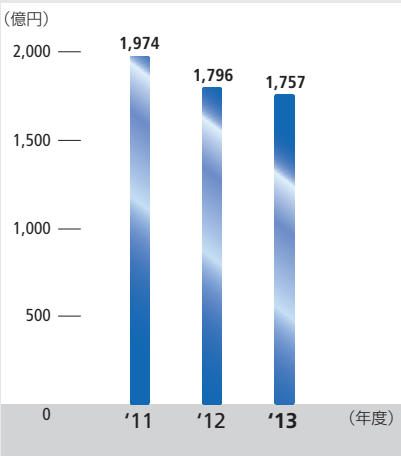
ROS<sup>※3</sup>／ROA<sup>※4</sup>／ROE<sup>※5</sup>



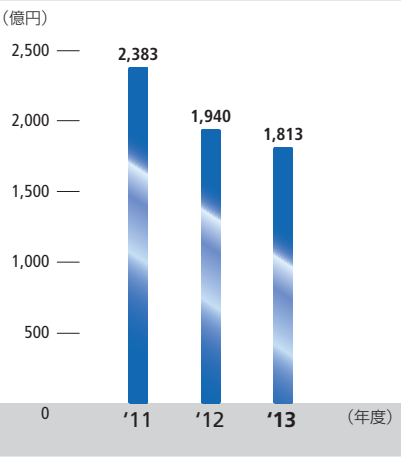
借入金・社債等残高／D/E レシオ<sup>※6</sup>



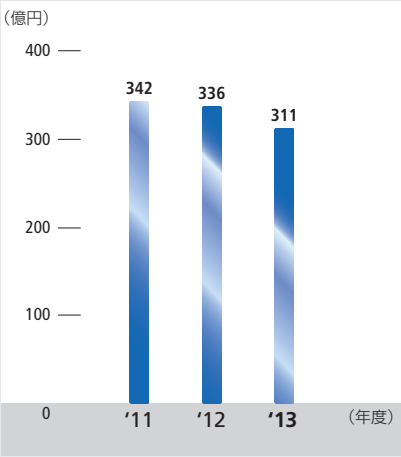
設備投資額



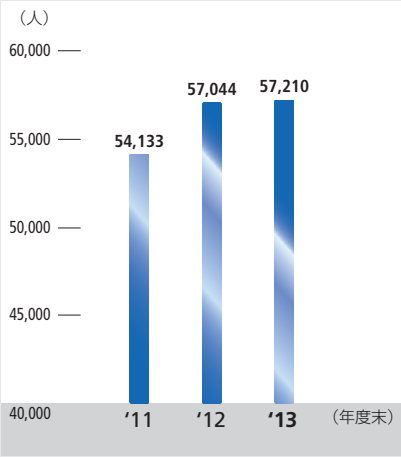
減価償却費



研究開発費



連結従業員数





会社概要

(2014年4月1日現在)

名称(商号) JFE ホールディングス 株式会社

設立年月日 2002年9月27日

[英文名称: JFE Holdings, Inc. ]

資本金 1,471 億円

本社所在地 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号

URL http://www.jfe-holdings.co.jp/

電話 03-3597-4321(代表)

事業会社・主要グループ会社

(2014年4月1日現在)

鉄鋼事業 売上高 26,916 億円 従業員数 42,481 名

JFE スチール 株式会社 本社(東京都千代田区)

グループ会社

■ 電炉・条鋼

● JFE 条鋼(株)

■ 鋼材加工品、原材料などの製造・販売

- JFE ケミカル(株)
- JFE 建材(株)
- JFE 鋼板(株)
- JFE コンテナ(株)
- JFE ミネラル(株)
- JFE 鋼管(株)
- JFE 鋼管(株)
- 水島合金鉄(株)
- JFE 継手(株)
- JFE 鋼材(株)
- JFE マテリアル(株)
- JFE 精密(株)
- リバースチール(株)
- JFE 電磁鋼板(株)
- フィリピン・シンター・コーポレーション
- JFE スチール・ガルバライジング(タイランド)・リミテッド
- タイ・コーテッド・スチール・シート・カンパニー・リミテッド
- 品川リフラクトリーズ(株)\*
- 日本鑄造(株)\*
- 日本鑄鉄管(株)\*
- エヌケーケーシームレス鋼管(株)
- 東国製鋼(株)\*
- 広州 JFE 鋼板有限公司\*
- タイ・コールド・ロールド・スチール・シート・パブリック・カンパニー・リミテッド\*
- JSW スチール・リミテッド\*
- 攀成伊紅石油鋼管有限責任公司
- カリフォルニア・スチール・インダストリーズ・インク\*
- PT. JFE スチール ガルバライジング インドネシア

■ 運輸・倉庫、製鉄所内の保全・工事、ユーティリティ供給など

- JFE 物流(株)
- JFE シビル(株)
- JFE メカニカル(株)
- JFE 電制(株)
- 瀬戸内共同火力(株)\*
- (株)JFE サンソセンター\*

■ 商社、その他鉄鋼関連

- JFE ライフ(株)
- JFE システムズ(株)
- JFE テクノリサーチ(株)
- JFE 東日本ジーエス(株)
- JFE スチール・オーストラリア・リソーシズ・プロプライタリー・リミテッド
- 日伯鉄鉱石(株)\*
- 日伯ニオブ(株)\*
- ジェコス(株)\*
- (株)エクサ\*

エンジニアリング事業

売上高 2,841 億円 従業員数 7,366 名

JFE エンジニアリング 株式会社

本社(東京都千代田区) / 横浜本社(横浜市)

グループ会社

- JFE テクノス(株)
- JFE 環境(株)
- あすか創建(株)
- ジャパン・リサイクル(株)
- JFE 環境サービス(株)
- 北日本機械(株)
- 富士化工(株)
- 東北ドック鉄工(株)
- ジャパントネルシステムズ(株)\*
- スチールブランテック(株)\*

\* 持分法適用会社  
※売上高: 2013 年度実績  
※従業員数: 2014 年 3 月 31 日現在

商社事業 売上高 17,813 億円 従業員数 6,207 名

JFE 商事 株式会社

本社(大阪市) / 東京本社(東京都千代田区)

グループ会社

【国内】

■ 鉄鋼(厚鋼板加工)

● JFE 商事造船加工(株)

■ 鉄鋼(薄鋼板加工)

- JFE 商事コイルセンター(株)
- JFE 商事甲南スチールセンター(株)
- 水島鋼板工業(株)

■ 鉄鋼(建材系流通)

- JFE 商事鉄鋼建材(株)
- JFE 商事薄板建材(株)

■ 鉄鋼(鋼管系加工・流通)

- ケー・アンド・アイ 特殊管販売(株)
- JFE 商事鋼管管材(株)

■ テールアルメ

● JFE 商事テールワン(株)

■ 食品

● 川商フーズ(株)

■ エレクトロニクス

● JFE 商事エレクトロニクス(株)

■ 海外

■ 中国

- 東莞川電鋼板製品有限公司
- 広州川電鋼板製品有限公司
- 浙江川電鋼板加工有限公司
- 江蘇川電鋼板加工有限公司

■ フィリピン

● JFE SHOJI STEEL PHILIPPINES, INC.

■ タイ

- CENTRAL METALS(THAILAND)LTD.
- STEEL ALLIANCE SERVICE CENTER CO., LTD.

■ ベトナム

- JFE SHOJI STEEL VIETNAM CO., LTD.
- JFE SHOJI STEEL HAI PHONG CO., LTD.

■ インド

- JFE SHOJI STEEL INDIA PRIVATE LIMITED

■ マレーシア

● JFE SHOJI STEEL MALAYSIA SDN. BHD.

■ シンガポール

● KAWARIN ENTERPRISE PTE. LTD.

■ インドネシア

● PT. JFE SHOJI STEEL INDONESIA

■ 米国

● VEST INC.

■ メキシコ

- JFE SHOJI STEEL DE MEXICO, S.A. DE C.V.

(持分法適用会社)

ジャパン マリンユナイテッド 株式会社

本社(東京都港区)

グループ会社

- (株)JMU アムテック
- (株)IMC
- ユニバーサル特機(株)

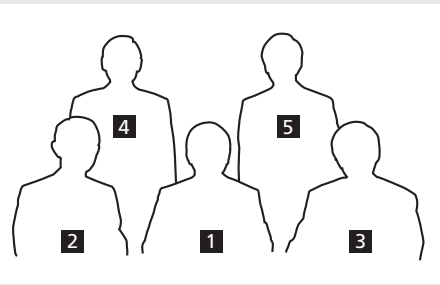
注: ユニバーサル特機(株)は 2014 年 7 月 1 日にて社名変更します。



取締役

- 1 代表取締役社長..... 馬田 一
- 2 代表取締役..... 林田 英治
- 3 代表取締役..... 岡田 伸一
- 4 取締役..... 芦田 昭充
- 5 取締役..... 前田 正史

※芦田昭充および前田正史の両氏は社外取締役。



執行役員

- 社長..... 馬田 一 CEO
- 副社長..... 岡田 伸一 総務部、経理部の統括  
企画部、財務・IR 部の担当
- 専務..... 山村 康 経理部の担当
- 常務..... 寺畑 雅史 総務部の担当

監査役

- 監査役(常勤)..... 笹本 前雄
- 監査役(常勤)..... 黒川 康
- 監査役..... 伊丹 敬之
- 監査役..... 大八木 成男

※伊丹敬之および大八木成男の両氏は社外監査役。





**JFE ホールディングス 株式会社**

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号

<http://www.jfe-holdings.co.jp/>